

<PRESS RELEASE>

報道関係各位

令和3(2021)年7月29日

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京  
特定非営利活動法人 Art's Embrace  
国立大学法人東京芸術大学

“違い”を超えた出会いで表現を生み出すアートプロジェクト  
日比野克彦監修 TURN フェス 6「出会いが広がる」プログラム発表  
“ダイバーシティ”を身近に感じる作品が集結！

- ・ひきこもり経験のある現代美術家の渡辺篤がコロナ禍でのつながりを“月を見る”ことで表現
- ・ラッパーのマチーデフが吃音の人と取り組んだ“ラップ”のプロセス公開
- ・「ダンシングホームレス」など、生きづらさを抱える人の日常や活動を映し出す映画上映

【作品展示・映画上映】8月17日(火)～19日(木)9:30～17:30@東京都美術館  
【パフォーマンス・制作プロセス紹介】開催中～9月5日(日)@特設ウェブサイト

アートプロジェクト「TURN」は、8月17日(火)～19日(木)の3日間、東京都美術館にて、TURN フェス 6「出会いが広がる」を開催し、アーティストとさまざまな団体との共働活動を通して生まれた表現の展示や映画上映を行います。また、9月5日(日)まで特設ウェブサイトにて、パフォーマンス映像や制作プロセスの紹介を行い、さまざまな表現やアーティストたちとの出会いを広げ、アクセシビリティやダイバーシティに関する理解を深める機会をつくっていきます。

「TURN」は、障害の有無、世代、性、国籍、住環境などの背景や習慣の違いを超えた多様な人々の出会いによる相互作用を、表現として生み出すアートプロジェクトとして、日比野克彦(アーティスト、東京芸術大学美術学部長)監修のもと2015年より始動し、持続性のある活動のあり方を思考してきました。

東京都美術館で行われる TURN フェス 6 では、ひきこもり経験のある現代美術家・渡辺篤によるコロナ禍でさまざまな人とのつながりを「月を見る」ことで共有・想像する映像プロジェクションや、「12フィートの木材を持ってあるく」ことで、極めてスローな時間軸の中で身体感覚と向き合ってきた山本千愛の記録映像といった8作家と9組の展示を行います。また、路上生活経験者のダンス集団による身体表現を描いたドキュメンタリー映画「ダンシングホームレス」など全7作品を上映し、マイノリティや生きづらさを抱える人の日常や活動を映し出します。

特設ウェブサイトでは、永岡大輔と障害児者支援施設「はあとぴあ原宿」によるワークショップや、ラッパー・マチーデフが吃音の人と取り組んだオリジナルラップの制作プロセスを公開するなど、TURNに参加する多様なアーティストによる活動や表現を動画、写真、テキスト、音声などで公開するほか、アーカイブ映像や書籍の朗読等を多彩な形で全19コンテンツを展開します。また、毎週土日の定時に各プログラムの見どころを紹介する「TURN TV」、音で楽しむ「TURN Tunes」を配信し、より豊かに各プログラムをお楽しみいただけるよう、ナビゲートします。



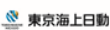
『同じ月を見た日』アイムヒア プロジェクト | 渡辺篤  
(R16 studio、横浜) (c)Keisuke Inoue



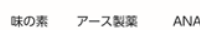
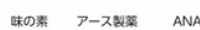
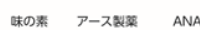
Tokyo 2020 NIPPON Festival Official Partner



Tokyo 2020 NIPPON Festival Supporting Partner



Tokyo 2020 NIPPON Festival Associating Partner



## アクセシビリティについて

会場の形を触れてイメージするための触知図、視覚や聴覚などに障害のある来場者一人ひとりにあわせて鑑賞方法や参加の仕方を提案する「アクセシビリティ・カウンター」など、さまざまな知覚を通して体験・参加できる環境をご用意します。

## 東京都美術館での展示内容のご紹介（一部）

### ▼参加アーティスト

#### 『同じ月を見た日』 アーティスト: アイムヒアプロジェクト | 渡辺篤

ひきこもりを経験した当事者でもある渡辺篤は、コロナ禍にあった2020年4月、「家から月を見てみませんか？私たちは離れていても同じ月を見ることができます」というメッセージをウェブサイトやSNSなどで発信。それぞれの場所から月の写真を撮影する参加者を募集すると、ひきこもり当事者をはじめ、外出自粛や生活様式の変化によって孤立感を感じる人、心や認知機能の問題を理由に生きづらさを感じている人、自身や家族の身体の障害に困難を感じている人、シングルマザー、パワハラやセクハラの被害経験者、ジェンダーに関する悩みがある人などさまざまな人から作品が集いました。月の写真のプロジェクション等を通して、コロナ禍の人のつながりについて表現します。

#### 『かたちのない手ざわり／接地面をなぞる』 アーティスト: 山本千愛

「12フィートの木材を持ってあるく」という表現行為を行ってきた山本千愛は、人々が営む日常の生活やリズムから逸脱し、極めてスローな時間軸の中に身を委ねることによって現れる身体感覚と向き合い、想定外な状況や人との出会いに遭遇しました。山本が東京を歩いた12日間の旅路を記録した映像を公開します。



『かたちのない手ざわり／接地面をなぞる』  
山本千愛



『遠くの地面を歩く』  
岩田とも子

#### 『遠くの地面を歩く』 アーティスト: 岩田とも子

多国籍の子供たちが通う国際的な保育園「ハーモニープリスクール」の子供たちと一人ひとりの目線で足元の地面をカメラに記録。その写真を繋げて、それぞれが歩いてきた痕跡を感じさせる新しい「地面」を生みだしました。岩田の展示を通じて、地面と向き合った私たちは、これから歩く道や過去の道、そして今同じ時を過ごしている遠いところにいる人の存在を思い馳せることになるかもしれません。

#### 『TURN NOTES(仮)』 アーティスト: 井川丹

TURNに関わるさまざまな人たちの言葉をもとに構成したオリジナル楽曲を披露します。

#### 『桃三ふれあいの家との交流記録』 アーティスト: 伊勢克也

高齢者在宅サービスセンター「桃三ふれあいの家」の高齢者との交流を通して生まれた編み物や桃三ふれあいの家のさまざまな人の手によってつくられた「家」を展示します。それぞれが語る「家」にまつわるエピソードから一人ひとりの多様な人生が垣間見えます。

#### 『こもね座特別企画「コレダ・レーダ」』 アーティスト: 大西健太郎

板橋区立小茂根福祉園の利用者やスタッフが、「二つの衣装が一つにつながった衣装」を着用し、他者との交流を行ったパフォーマンス映像です。「わたし」の身体の中に「他者」の知覚を想像します。「これ、誰だ？」(＝コレダ・レーダ)

『このオペラは見えない。それは釣りをする時、魚がいても見えないのと同じ。このオペラは聞こえない。それは朝日が昇る時、地鳴りがしないのと同じ。ようこそ、これからのオペラハウスへ。大海を舞う魚のように、私たちを繋ぐ太陽のように、当たり前の日々を奏で続ける。』 富塚絵美、佐藤慎也、本多達也、山蔦栄太郎、橋本瞭、島影圭佑、梶谷真司、三科聡子  
アーティストの富塚絵美の「戯曲」を起点に、「盲ろう者が当たり前に創ることや鑑賞することを一緒に楽しめるオペラ＝オボラ」を目指してつくられた作品。書き下ろした演劇ではなく、美術の世界に置かれた戯曲とその周りの創造物は、さまざまな他者と出会うための入り口として、知覚と想像する幅を広げていきます。

### 『エベレスト・インターナショナル・スクール・ジャパンとの旅』 アーティスト:丸山素直

在日ネパール人の子供たちに、ネパール語と英語を話すことが可能な教育環境をつくり出す「エベレスト・インターナショナル・スクール・ジャパン」の子供たちと美術の授業を通して、授業の在り方や創作する上で大切なことを自身に問いかけました。その経験をもとに、プロセスの時間に着目しました。2020年は遠隔からの交流として、絵を通じた文通のようなやり取りを行い、今年度は学校に赴きながら試行錯誤してきた交流の様子と、そこで生まれた創作の数々を紹介します。

### TURN LAND:気まぐれ八百屋だんだん『だんだんひらき、だんだんつつみ』 アーティスト:野口竜平

大田区で無農薬野菜や自然食品を扱う八百屋として設立された気まぐれ八百屋だんだんは、八百屋に加え、地域の人々の居場所や出番をつくり出す文化センターのような場所として、多岐にわたる活動をしています。だんだんの多様な活動に、野口竜平が取り組んでいる「移動」を掛け合わせることで見えてきたキーワード「つつむ」を軸に展開。だんだんのこれまでの活動記録を多角的に紹介しつつ、だんだんという「居場所」とそのひらき方における可能性を探ります。

▼映画上映:マイノリティや生きづらさを抱える人の日常と活動を映し出します。

- ・『TURNs 2016-2021』 監督:田村大
  - ・『father 2008.11-12』(2020年)、『father 2011-2013』(2019年) 監督:金川晋吾
  - ・『愛と法』 監督:戸田ひかる
  - ・『うたのはじまり「絵字幕版」』 監督:河合宏樹
  - ・『ダンシングホームレス』 監督:三浦渉 出演:新人Hソケリッサ!
  - ・『アイ・コンタクト〜もう一つのなでしこジャパン・ろう者女子サッカー〜』 監督:中村和彦
  - ・『世界を自分に取り戻せ』 制作:松本力、TDU・雫穿大学(てきせんだいがく)
- ※上映スケジュールは、決定次第ウェブサイトにて公開します。



『ダンシングホームレス』 監督:三浦渉

## 特設ウェブサイトでのプログラム内容 (一部)

### ▼参加者募集企画

永岡大輔:障害児者支援施設「はあとびあ原宿」との交流を通して生まれた似顔絵を描くワークショップを展開します。

アイムヒアプロジェクト | 渡辺篤:『同じ月を見た日』の参加者を新たに募集し、参加者が撮影した月の写真を公開します。

### ▼制作プロセス・パフォーマンスの公開

マチーデフ:ラッパーのマチーデフは、吃音症の人が発話の際に行っている工夫と、ラップの歌唱法に親和性を感じ、吃音のある人とラップを創作する「吃音 the mic プロジェクト」を実施します。制作プロセスやワークショップでのパフォーマンスを公開します。

松本力:雫穿大学の学生との交流を通して生まれたアニメーションを公開します。

クラフト工房 La Mano: TURN LANDの一環として育てている綿や「手(ラmano)」を紹介する映像を上映します。

TURN TV:8月7日(土)から9月4日(土)まで、毎週土曜日にTURNプロジェクトデザイナーのライラ・カセムがパーソナリティを務め、TURN フェス6 オンラインプログラムの見どころお届けします。

TURN Tunes:8月8日(日)から9月5日(日)まで、毎週日曜日にアーティストの稲継美保がナビゲーターを務め、音を通してイメージを膨らませ楽しめるラジオを配信します。

TURN アーカイブ配信:海外で展開したTURNのプロジェクトや、過去のTURNフェスのダイジェスト映像を紹介します。

TURN NOTE リーディング:毎年刊行しているTURN NOTEに収録された言葉を詩人の向坂くじらとカニエ・ナハが朗読します。

## 第14回 TURN ミーティング

「TURN ミーティング」では、「TURN」の可能性について多彩なゲストとともに考え、語り合います。

8月17日(火)にオンラインで開催予定です。詳細は後日ウェブサイトでご案内します。



## 「TURN フェス 6」開催概要

### TURN フェス 6: 東京都美術館

日時: 2021年8月17日(火)～19日(木)9:30～17:30(入室は閉室の30分前まで)

開催場所: 東京都美術館(東京都台東区上野公園 8-36) ロビー階 第1・第2 公募展示室、講堂

入場: 無料

参加作家・団体: 井川丹、伊勢克也、五十嵐靖晃、岩田とも子、大西健太郎、気まぐれ八百屋だんだん、クラフト工房 La Mano、板橋区立小茂根福祉園、永岡大輔、ハーモニー、松本力、マチーデフ、山本千愛、アイムヒアプロジェクト|渡辺篤、富塚絵美、佐藤慎也、本多達也、山蔦栄太郎、橋本瞭、島影圭佑、梶谷真司、三科聡子、田村大、丸山素直、PARC、野口竜平、ほか ※順不同

### TURN フェス 6: オンラインプログラム

日時: 2021年7月19日(月)～9月5日(日)

※TURN TV 8月7日(土)～9月4日(土)毎週土曜日 13:00-14:00(全5回)

※TURN Tunes 8月8日(日)～9月5日(日)毎週日曜日 11:00-12:00(全5回)

開催場所: TURN フェス 2021 特設ウェブサイト(<https://fes2021.turn-project.com/online>)

参加作家: アイムヒアプロジェクト | 渡辺篤、マチーデフ、山本千愛、永岡大輔、飯塚貴士、稲継美保、松本力、田村大、パポとユミ、向坂くじらとカニエ・ナハ、ほか ※順不同

主催: 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京・東京都美術館、  
特定非営利活動法人 Art's Embrace、国立大学法人東京芸術大学

共催: 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

※TURN フェス 6 は、東京 2020 NIPPON フェスティバル 共催プログラムとして実施します。また、東京都及び公益財団法人東京都歴史文化財団がオリンピック・パラリンピックが開催される東京を文化の面から盛り上げるため、多彩なプログラムを展開し、芸術文化都市東京の魅力伝える取組「Tokyo Tokyo FESTIVAL」の主要プログラムです。

※「東京都感染拡大防止ガイドライン」に沿った新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じて実施します。ご来場の際は、必ず TURN フェス 2021 特設ウェブサイト内の「新型コロナウイルス感染症対策とご来館される皆様へのお願い」をご確認いただき、マスクをご着用の上、ご来場ください。

※新型コロナウイルス感染症の影響により、実施内容等に変更が生じる可能性があります。

※「3密」(密閉・密集・密接)を避けるため、入場制限を行う可能性がございます。

※会場内ではオフィシャルカメラマン及び取材メディア等による写真撮影及び動画撮影が行われます。会場内のお客さまが映り込む場合がございますので、予めご了承ください。

TURN フェス 2021 特設ウェブサイト: <https://fes2021.turn-project.com/>

TURN 公式ウェブサイト: <https://turn-project.com>

#### 報道関係者からのお問合せ

TURN フェス PR 事務局 担当: 村上

TEL(直通): 090-5074-2320

E-mail: [press@turn-project.com](mailto:press@turn-project.com)

※会場への問い合わせは遠慮願います。

#### 本事業に関するお問合せ

TURN 運営本部

Tel: 03-3824-9039 (10:00～17:15) ※土日祝日を除く

E-mail: [info@turn-project.com](mailto:info@turn-project.com)

080-9081-0171 (8/17～19 9:30～17:30)

